

看護学科

講義要綱

科目	看護学概論	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 佐野 繁子				
授業目的	看護の基盤となる理論・歴史・原理について学ぶ。				
到達目標	1 人間とはどんな存在か、健康の考え方の変遷を知り、主要な理論家の看護の概念を学び活用する意味を見出し表現する。 2 看護の歴史的変遷、看護制度の成り立ち、看護の動向を知り、看護師が専門職である必要性を表現する。 3 授業を通して看護とは何かを問い続け、現時点で自分が考える看護とは何かを表現する。				
技術項目					
授業概要	統計資料や事例を通して、人間・健康について考えていきます。ナイチンゲール・ヘンダーソンについて学び、主要な理論家の看護の概念はグループで学習し、看護理論を学び活用する意味を考えていきます。 職業としての看護について、法に着目し、専門職の特質を視点に看護師は専門職といえるかを考えていきます。 授業を通して常に、「看護とは何か」を問い続け、仲間と看護について考えていきます。この科目の終了時には、現時点で自分なりの看護とは何かの答えを見出します。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	看護とはを学ぶにあたり、看護師を目指す自己を見つめる	私が看護師を目指した理由、今考えている看護師を具体的に表現し講義時持参		佐野繁子
	2	法律と看護職能団体による看護の定義を知る ナイチンゲールの登場による変化を仲間と共有する	ナイチンゲールの登場により看護はどのように変化したか表現するテキストを読み、看護について6つの構成要素で整理し講義時持参		
	3	小テスト① 看護の対象である人間はどんな存在か考える			
	4	小テスト② 健康について考える 自分は健康か 統計資料から考える 事例を通して考える 健康の考え方の変遷を知り、健康の考えを共有する	私は健康か表現する統計データから健康について読み取り講義時持参		
	5		入学前準備課題を振り返り星野さんの健康の推移について図に示し、講義時持参		
	6		健康のとらえ方の変遷をテキストを読みまとも、講義時持参		
	7	小テスト③ 職業としての看護 看護職の変遷、法的、就業場所の特徴を知る	看護職の資格とその特徴をテキストを読みまとも、講義時持参		
	8	小テスト④ 看護師は専門職か、専門職の特質から考える ・ 高度に体系化された知識・技術を修得しているか（看護基礎教育と養成制度に注目） ・ 職域に関する大幅な自主性・主体性（自律性）があるか（法・看護の独自の機能に注目）			
	9	小テスト⑤ ・ 社会的奉仕（公共性）があるか（医療・看護サービスの特徴と対価のしくみに注目）	専門職としての独自性についてナイチンゲールとヘンダーソンの考えを振り返り講義時持参		

10	・ 職能団体として倫理綱領をもっているか (職業倫理に注目)	事例の学生の戸惑いを想像し、看護の方法Ⅱで学んだ看護倫理の知識を活用して考え表現し、講義時持参
11	小テスト⑥ 看護師が専門職である必要性について考えを共有する	看護サービス提供の場と法と特徴をテキストを読みまとめ、講義時持参
12	小テスト⑦ 担当した理論家が同じ仲間と学習成果を確認し、他のメンバーに伝達する資料をブラッシュアップする	担当した理論家の看護の概念について資料にまとめ、メンバーに事前配付
13	担当した理論家の看護の概念を他のメンバーに伝達講習 看護理論を学び活用することについて考え共有する	ブラッシュアップした資料を理論家が異なるメンバーに事前配付
14	看護とは何かの考えをまとめた学びのプロセス図解(プロセスチャート)を用いて、仲間と意見交換	プロセスチャートを作成しメンバーに事前配付
15	終了試験	
履修条件	授業の多くは、事前学習を使ってすすめていきます。事前学習の目的や方法について説明しますので、不明な点はそのままにせず確認しながらすすめていきましょう。 仲間と看護について考えていきますので、自分の考えをもち、積極的に仲間と意見交換して、目標達成に向けて取り組んでいきましょう。 小テストは授業進度により変更する場合がありますので、授業内で伝えます。	
評価方法	終了試験 70点 小テスト10点 今私が考える「看護とは何か」をプロセスチャートに表現するパフォーマンス課題 10点 学習姿勢 10点 *授業内でルーブリックを示す	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 小玉香津子他訳 日本看護協会出版会 V. ハンダーソン 看護の基本となるもの 湯楨ます訳 日本看護協会出版会 *入学前課題図書 新装版 愛、深き淵より 星野富弘著 学研プラス	
参考書	ナイチンゲール 看護覚え書 小玉香津子訳 現代社 ナイチンゲール「看護覚え書き」入門 平尾真智子 医学書院 V. ハンダーソン選集 小玉香津子訳 医学書院 看護理論家の業績と理論評価 筒井真優美編集 医学書院	
備考		

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法 I	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 森 康太 (14) 高野 祐志 (6) 松本 めぐみ (4) 感染管理認定看護師 齋藤 敦子 (4) 宮上 麻実 (2)				
授業目的	【看護技術・観察】 (4) 看護技術とは何か、どのように学習していくか知る。 看護における観察とその意義について理解する。 【話す・聞く】 (14) 看護における効果的なコミュニケーションを理解する。 【感染予防】 (12) 感染予防の技術について学ぶ				
到達目標	看護技術を習得していく過程を学びながら、看護における観察の意義と手法を理解する。 看護場面によくみられるコミュニケーションの実際を通し、効果的なコミュニケーションを体験的に学び、自己のコミュニケーションにおける傾向を知る。 看護における感染予防の必要性を学び、標準予防策を理解する。				
技術項目	57:スタンダードプリコーション 58:必要な防護用具の選択 59:使用した器械の感染防止の取り扱い 60:感染性廃棄物の取り扱い 61:無菌操作				
授業概要	最初に看護の方法の学習方法など総論として講義する。 感染防止の技術・コミュニケーションの単元で構成されている。看護するうえで共通して必要な技術を講義・演習をとおして学ぶ。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	看護の方法総論 1 看護技術とは 看護の方法の学習方法			松本 めぐみ
	2	看護の方法総論 2 看護と観察			
	3	感染防止の基本知識 感染成立の条件 院内感染と防止策			高野 祐志
	4	感染予防策 スタンダードプリコーション 感染経路別予防策			宮上 麻実
	5	演習 衛生的な手洗い 個人防護具の着脱 滅菌手袋装着	個人納品の演習セット から持参する物品あり		齋藤 敦子
	6	臨床での感染対策の実際 (院内)			
	7	洗浄・消毒・滅菌 基本知識 無菌操作の基礎知識			高野 祐志
	8	演習 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い	個人納品の演習セットから持参する物品あり		
	9	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素とプロセス 関係構築のためのコミュニケーションの基本			森 康太
	10	聴くとくこと、伝えるということ 看護場面におけるコミュニケーションの実際			
	11	対人関係を解き明かす技術 プロセスレコード～	～プ		
	12	プロセスレコードを用いた検討①		プロセスレコード 検討会	
	13	プロセスレコードを用いた検討②			
	14	コミュニケーションの技術 頼構築とアサーション～	～信		
15	終了試験				
履修条件	ここで学ぶ基礎的知識はこれから看護を考えていく上での基本となります。知識を確実にもち、実践につながるようにしていきましょう。				
評価方法	終了試験及び提出物				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 II 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 今井 弓珠				
授業目的	看護の基本となる共通技術を学ぶ。				
到達目標	<p>看護の基本的な共通技術となる観察、記録、看護過程について理解する。</p> <p>1) どのように考えることが看護師らしく考えることなのかがわかる。</p> <p>①看護過程の構成要素を知り、それぞれの内容について理解できる。</p> <p>②問題解決過程（思考）について、看護過程との関連を含めて理解できる。</p> <p>③クリティカルシンキング（批判的思考）について理解すると共に、繰り返しトレーニングできる。</p> <p>④倫理的配慮と価値判断について、医療・看護における倫理の原則を踏まえて、自分の経験と関連付けて考えることができる。</p> <p>⑤リフレクションについて理解すると共に、繰り返しトレーニングできる。</p> <p>2) 呼吸・体温についての観察・記録・看護過程について、知識を活用して実施することができる。</p>				
技術項目	29:体温調節の援助 50:バイタルサインの測定 52:フィジカルアセスメント				
授業概要	関連する形態機能学やフィジカルアセスメントとつなげて考えていけるよう授業の時期を設定しています。看護の専門的思考の基本をここで学び、看護過程の演習へつなげます。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	看護過程と看護の専門的思考	テキストの該当内容の学習		今井 弓珠
	2	問題解決思考とは何か	テキストの該当内容の学習		
	3	クリティカルシンキング	テキストの該当内容の学習		
	4	クリティカルシンキング			
	5	看護過程 倫理的配慮と価値判断	テキストの該当内容の学習		
	6	リフレクション	テキストの該当内容の学習		
	7	リフレクション	体験のリフレクション		
	8	リフレクション			
	9	看護過程 情報収集・アセスメント	テキストの該当内容の学習		
	10	看護過程・健康問題の抽出から評価まで	テキストの該当内容の学習		
	11	看護記録	テキストの該当内容の学習		
	12	ハンダーソンの観察の視点：正常に呼吸する	テキストの該当内容の学習		
	13	ハンダーソンの観察の視点：正常な体温を維持する	テキストの該当内容の学習		
	14	看護師らしく考えるとは	観察内容の記録		
15	終了試験				
履修条件	<p>看護の思考の基礎を学びます。</p> <p>バイタルサインの観察技術は、患者さんの状態を知る大切な基本技術です。技術を手順で覚えようとしても身につけません。行為の意味を理解した上で、繰り返し練習をして正確な技術の習得を目指しましょう。また、正確に観察するためには物品の管理も重要となります。使用する器具の自己管理を確実に行いましょう。</p> <p>授業内容に該当するテキストのページを提示するので、事前学習をして臨むこと。</p>				
評価方法	筆記試験・課題（ワーク含む）・確認テスト（事前学習の確認） 配点は、授業開講時に伝えます。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科 講義要綱

科目	看護の方法Ⅲ	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 岡村 恵乃 (14) 石島 祐美 (16)				
授業目的	人間にとっての「食」と「排泄」の意義と必要な機能を理解し、援助の必要性と技術を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 患者の状況に合わせて適切な食と排泄の援助を提供できる思考と技術を身につける。 2 安全で安楽に配慮した食事援助・栄養摂取の援助を理解する。 3 羞恥心に配慮しながら安全な排泄援助について考える。 				
技術項目	3:食事介助 4:食事指導 5:経管栄養法による流動食の注入 6:経鼻胃チューブの挿入 7:排泄援助 8:膀胱留置カテーテルの管理 9:導尿または膀胱留置カテーテルの挿入 10:浣腸 69:安楽な体位の調整				
授業概要	人間の生命維持に必要な栄養・食事、排泄を理解し、対象にとっての食事・排泄の意義を理解した食事・排泄援助の実際を学ぶ。事例に合わせた食事・排泄援助の方法を考え実施します。対象が安全で安楽に、食事・排泄のニーズが満たされるための援助について考え実施できるようにする。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	人間にとって食べること 食事の機能、意義		岡村 恵乃	
	2	機能障害が食事のニーズに及ぼす影響			
	3	食事援助の実際① 患者の安全・安楽・ 食事のニーズが満たされるための工夫 「食事介助をする、受ける体験」	演習		
	4	食事援助の実際② 演習①をふまえて事例に沿った食事援助の 計画、実施、評価	演習		
	5	非経口的栄養摂取とは			
	6	非経口的栄養摂取の援助	演習		
	7	自分の排泄について考える			
	8	排泄の援助を計画する上で必要な アセスメントについて考える		石島 祐美	
	9	色々な排泄方法について理解する ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつ どの道具がどんな人に適しているのか			
	10 11	演習 床上排泄の援助の実際 尿器・便器 おむつの装着体験	演習		
	12	排便障害時の援助について理解する 便秘改善・浣腸・摘便 排尿障害時の援助について理解する 導尿（一時的・持続的）			
	13	演習 排便障害時の援助の実際：浣腸	演習		
	14	排尿障害時の援助の実際：導尿			
	15	終了試験			
履修条件	看護師として患者に適した食事援助をする事の意義について考えながら授業に臨みましょう。排泄は人間の尊厳にかかわる援助なので、真摯に取り組んでほしい。				
評価方法	出席状況 課題の提出状況・内容 終了試験100点：食事の援助40点 排泄の援助60点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院				
参考書	必要時、講義でお知らせします。				
備考					

講義要綱

科目	看護の方法Ⅳ	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 市川 真由子 (20) 今井 弓珠 (10)				
授業目的	環境の意義と環境調整に必要な知識・技術を学ぶ。 人間の暮らしを作り出す日常生活行動について、からだの動きに注目して学ぶ。また、運動と休息のバランスを維持することの意義を理解し、人間の動く・眠るを支える援助の方法について学ぶ。				
到達目標	1 快適な療養環境の整備。 2 活動と休息の援助を安全安楽に実施する。				
技術項目	1:快適な療養環境 2:臥床患者のシーツ交換 13:車椅子での移送 14:歩行・移動介助 15:移乗介助 16:体位変換・保持 17:自動・他動運動の援助 18:ストレッチャー移送 69:安楽な体位の調整 70:安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 71:精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	環境・動く眠るの2つの単元で構成する。健康と人間の生活を2つの観点から日常生活の行動を意識しながら学ぶ。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	環境とは	療養環境とは		今井 弓珠
	2	リネン類の取り扱い	リネン類の役割・整理の方法		
	3	病床の作り方 バッドメイキング	チューターによる技術習得を目指す		
	4	臥床患者のリネン交換	バッドメイキングの応用		
	5	バッド周囲の環境整備・事故防止の技術	演習・グループワーク		
	6	運動と休息のバランス 日常生活行動、姿勢と体位、関節可動域	・運動と休息の意義 ・看護の役割について		市川 真由子
	7	ボディメカニクス 理学的な視点を生かした身体の動かし方 人間の自然な動き	・ボディメカニクスとは		
	8	体位変換	・ボディメカニクスを活用した移動の援助		
	9	人間の自然な動きを活用した移動の援助			
	10	車椅子を活用した移乗と移送	・ボディメカニクスを活用した移動の援助 ・安全・安楽について考える		
	11	ストレッチャーを活用した移動、歩行の介助			
	12	人間にとっての活動と休息	・運動と休息の意義 ・看護の役割について		
	13	安楽確保の援助：褥法、精神的安寧を保つケア	・褥法について ・安楽につながる援助について考える		
	14	安楽確保の援助：体位保持、安楽な体位の調整	・ポジショニングについて ・まとめ		
15	終了試験				
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師としてその人にあった環境に整える事の大切さを意識し授業に臨みましょう。 ・実習において、受け持ち患者のベッドとその周囲の環境整備が自信を持ってできるよう確実な技術を身につけましょう。 ・活動に関する基本的な技術は、学生同士で安全に実施できるよう根拠を理解し、確実に身につけましょう。 ・演習や実習で出会う対象者をイメージし、技術のスキルを目指していきましょう。 				
評価方法	出席状況、授業姿勢、課題内容、筆記試験、技術試験、レポート提出について総合的に評価します。 配点：環境 30点（終了試験20点・技術試験10点） 動く眠る70点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考書	適宜、資料で提示				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法V	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 内藤 さおり				
授業目的	1 人間にとって清潔を保持することや衣生活を整えることの意義を学ぶ。 2 衣生活を整えるために必要な知識・技術を学ぶ。 3 清潔を保持するため必要な知識・技術を学ぶ。				
到達目標	人間にとっての清潔の意義について理解し、患者の状況に合わせて援助を提供できるようその方法について計画・実施する。				
技術項目	19:手浴 足浴 20:整容 21:点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 23:陰部の保清 24:清拭 25:洗髪 26:口腔ケア 27:点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換				
授業概要	私たちが日常生活で行っている『清潔行動』を意識し、同じ行動、個々に異なる行動を共有し、清潔への援助へつなげるよう学習する。 仲間同士での練習、患者体験を通して、自分で清潔行動がとれないときの気持ちや人からの援助を受けることに対する思いなどを考える。				
授業方法	対面授業・必要に応じクラスを2分割して演習を実施する。				
授業展開	回数	内容		準備等	担当者
	1	清潔の意義 ・清潔・衣生活に必要な皮膚の構造と機能 ・入浴の3大作用と関連する効果		・日常生活と学びを結びつける ・皮膚の構造と機能(形態機能学IV) ・標準予防策、ボディメカニクス、環境調整技術等、既習の知識を復習しておく 倫理的配慮について考える	内藤 さおり
	2	衣生活の意義 ・熱の移動と被服気候 ・衣類の交換のタイミング・はきものの選択・着脱の原則 ・衣生活の援助の前に観察・確認すること ・清潔ケアの種類と方法			
	3 4	演習:寝衣交換 ・ウォッシュクロスの使い方 ・適切な清拭タオルの使い方:体験を通して		・寝衣交換の援助計画 動画視聴	
	5	演習:お湯を効果的に使うための実験		・1・2講の知識 ・湯の作用や特徴	
	6	演習:部分浴の実践		・足浴の援助計画 動画視聴	
授業展開	7	演習:陰部洗浄の実践		・陰部洗浄の援助計画 動画視聴	
	8 9	演習:全身清拭		・清拭の援助計画 動画を視聴	
	10	・口腔機能のはたらき ・口腔ケアの意義、目的、効果、方法 義歯 ・歯周病、呼吸器疾患予防 演習:口腔ケアの実践		・口腔ケアの援助計画 オーラルフレイル 災害時 動画視聴	
	11 12	演習:臥床患者への洗髪(結髪含む) ケリーバット、洗髪車、在宅での洗髪いずれかを 実施		・洗髪の援助計画 ・動画視聴	
	13 14	演習:技術のまとめ		・1年間で学んだ看護技術の集大成として、事例の患者への援助計画を作成し実践する。学びのまとめ	
	15	終了試験			
履修条件	形態機能学IVで学んだ皮膚の構造と機能の知識や、事前に学習している知識や技術を活用する力が求められます。そのためには課題の取り組みのほか、学んだことを繰り返し復習し、各回の演習に生かせるように心がけることが大切です。自らの患者体験を通して、自分で清潔行動が取れないことに対する思いや人からの援助を受けることに対する思いなどを考え、自分の援助につなげてください。仲間と積極的に練習をしてください。				
評価方法	①終了試験…60%の配点 ②演習・技術チェック ③授業へ参加する態度や出席率 ②と③で40%の配点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術II 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法VI	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 岡村 恵乃 (18) 今井 弓珠 (12)				
授業目的	与薬・検査における基礎的知識・技術を学ぶ。				
到達目標	1 与薬援助時の看護師の役割・技術について理解する。 2 診療検査時の看護師の役割・技術について理解する。				
技術項目	38:経口薬の投与 39:経皮・外用薬の投与 40:坐薬の投与 53:検体(尿、血液等)の取扱い 55:静脈血採血 56:検査の介助 62:針刺し事故の防止・事故後の対応 64:患者の誤認防止策の実施 64:患者の誤薬防止策の実施				
授業概要	形態機能学の知識を活かしながら、安全・安楽に治療検査が受けられるよう看護師に必要な知識と技術を講義・演習を通して習得する。演習は単独で実施できるように教員が複数でサポートしながら進める。				
授業方法	講義・演習(事例検討・患者・看護師役を交代しながら演習する)				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	安全に与薬するために	講義	今井弓珠	
	2	与薬における看護師の役割	講義		
	3	経口的与薬の方法と注意点	講義 演習		
	4	直腸内与薬、点眼、吸入、点耳、点鼻、貼付、塗布・塗擦についての知識	講義		
	5	直腸内与薬、点眼、貼付・塗布・塗擦の実際	演習		
	6	事例に対しての与薬方法を計画・実施	演習		
	7	診療・検査とは	講義	岡村恵乃	
	8	検査における看護師の役割	講義		
	9	検体検査と生体検査(扱いと測定)	講義		
	10	検査における看護師の役割・援助の実際	演習		
	11	血液検査とは	講義		
	12	静脈血採血について	演習		
	13	静脈血採血	演習		
	14		演習		
15	終了試験	講義			
履修条件	形態機能学の知識を使えるよう復習しておきましょう。				
評価方法	レポート課題・終了試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考書	写真でわかる臨床看護技術① 本庄恵子 インターメディカ				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅶ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 岡村 恵乃				
授業目的	ヘルスアセスメントについて看護における重要性、フィジカルアセスメントの関係性を理解し、健康の査定を行うための具体的な方法を学ぶ。				
到達目標	問診やフィジカルイグザミネーションの技術を活用して得られた情報から対象の身体状態をアセスメントできる。				
技術項目	50：バイタルサイン 52：フィジカルアセスメント				
授業概要	対象の身体状態をアセスメントするための問診・視診・打診・触診・聴診の技術の方法を学ぶ。 血圧測定およびバイタルサイン測定ではチューターグループで技術の習得を目指す。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	フィジカルアセスメントと基本診断技術	講義		岡村
	2	フィジカルアセスメントに活用する血圧測定	講義後に演習		
	3	運動機能のフィジカルアセスメント	講義後に演習		
	4	腹部のフィジカルアセスメント	講義後に演習		
	5	フィジカルアセスメントに活用するバイタルサイン測定	講義後に演習		
	6	循環機能のフィジカルアセスメント	講義		
	7	循環機能のフィジカルアセスメント	演習		
8	終了試験				
履修条件					
評価方法	終了試験、課題学習の提出状況・内容、血圧測定・バイタルサイン測定の技術習得度、出席状況（出席日数・授業態度）				
テキスト	看護がみえる③フィジカルアセスメント 岡庭 豊 メディックメディア 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院				
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント 第2版 横山美樹 メディカルフレンド社				
備考	演習は学生同士が患者役・看護師役を交代で行うため、ポロシャツで臨むこと。				

看護学科

講義要綱

科目	看護過程演習	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 今井 弓珠				
授業目的	事例を用いて看護過程を展開し、看護の専門的思考について学ぶ。				
到達目標	看護の考え方を学び、事例展開することで看護に必要な看護過程の理解を深める。				
技術項目					
授業概要	人間の心理・社会的背景、基本的欲求、生理機能の障害、生活の障害などの視点から、看護師として患者を理解する方法を学ぶ。そして、看護問題の明確化、看護計画立案を行い、根拠のある看護援助方法を見いだす。さらに援助の評価方法を学び、より質の高い援助を実施するための思考を事例を通して学ぶ。理解を深めるためにグループワークも活用します。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	・看護過程の振り返り（看護の方法Ⅱ） ・ヘンダーソンのニード論について ・記録用紙の説明・活用法：ヘンダーソンの理論と照らし合わせて ・事例を活用して看護過程を知る ・展開事例①：事例配布	課題提出	今井弓珠	
	2	事例① 常在・病理・情報の整理をグループ内で共有	課題提出		
	3	事例① ニードのアセスメントの共有	課題提出		
	4	事例① ニードのアセスメントの共有	課題提出		
	5	事例① 問題点のリスト化と望ましい姿・ねがう生活の共有 全体像の共有	課題提出		
	6	事例① 看護計画の共有 事例②の配布	課題提出		
	7	事例② 常在・病理・情報の整理をグループ内で共有	課題提出		
	8	事例② ニードのアセスメントの共有	課題提出		
	9	事例② ニードのアセスメントの共有	課題提出		
	10	事例② 問題点のリスト化と望ましい姿・ねがう生活の共有 全体像の共有	課題提出		
	11	事例② 計画の共有・実践・SOAPの記載方法	課題提出		
	12				
	13	事例② SOAPの共有・評価日評価について まとめ	課題提出		
	14				
15	終了試験				
履修条件	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を身につけていきます。看護になるための専門的思考を学ぶためには、今まで学んだ知識を使い、不足している点は自分で調べ考える必要があります。どのように考えたのかを意識するために、言葉で表現していきます。普段から「調べる」、「考える」習慣を身につけ、わからないことをそのままにせず、主体的な取り組みを期待しています。課題提出期限を守り、回を重ねるごとに学びを深めていきましょう。				
評価方法	1 出席状況 2 終了試験 3 事例展開の実際 4 課題提出物				
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
参考書	看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン 日本看護協会出版会				
備考					

科目	地域・在宅看護論概論		単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義		時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 石島 祐美 (13) 木下 晴美 (2)					
授業目的	地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートについて理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域に暮らす人々の暮らしを理解する 2 地域・在宅看護論を学ぶ意義を理解する 3 暮らしの中で看護を理解する 4 地域・在宅看護の機能と役割を理解する 					
技術項目						
授業概要	地域・在宅は、「暮らし」の視点が大切です。医療・看護を必要としている対象はどのような暮らしをしているのか、対象とはどのような人なのかを考えていくことが必要になります。					
授業展開	内容			準備等	担当者	
	1・2	地域・在宅看護の機能と特質 <ol style="list-style-type: none"> 1) 担い手と看護を提供する場 2) 地域で暮らしつづけることを支援するマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・倫理と基本理念、権利保障 ・自己意思決定支援 (ACP) ・ケアマネジメント 3) 在宅看護の目的と機能 <ul style="list-style-type: none"> ・健康の予防・維持・増進 ・介護予防 ・インフォーマルネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム ・「暮らし」とは 	石島 祐美		
	3	地域・在宅看護の意義と必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム ・自助・公助・共助・互助 ・地域・在宅看護の意義と必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴 ・4つの「助」と地域との関連性 	木下 晴美		
	4	地域・在宅看護の対象・場の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・病院 (外来・入院) 診療所 ・居宅 (自宅・施設) ・療養通所型事業所、介護施設など 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護論に関連する法律や制度 	石島 祐美		
	5	地域・在宅看護の対象・場の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある介護事業所の視点から、地域で暮らすことを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らすことは 	石島 祐美		
	6・7	地域・在宅看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 制度と訪問看護 2) 暮らしの自立支援 3) 病状・病体の変化の予防と予測 4) 暮らしの中で起こる問題 5) チームケア 6) ケアマネジメントと看護の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における看護の役割と看護の視点 ・自立支援に向けた関わり 	石島 祐美		
	8	終了試験				
履修条件						
評価方法	筆記試験 出席日数 授業態度 課題提出状況 ポートフォリオ					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 国民衛生の動向 医療福祉総合ガイドブック 医学書院		医学書院 医学書院			
参考書						
備考						

看護学科

講義要綱

科目	地域・在宅看護論演習	単位数	2	開講時期	1年後期
授業形態	演習	時間数	45	必修区分	必修
担当者	看護師 石島 祐美				
授業目的	地域で暮らす人々について、地域活動の実際から理解する。				
到達目標	1 地域で暮らす市民（人々）の様々な生活の場があることがわかり、健康に向けた暮らしの実際を理解する。 2 地域の施設のひとつである「病院」について「暮らし・生活」の視点から理解する。				
技術目標					
授業概要	人々の暮らしの場である「地域」を「生活者」と「看護」の視点から学びます。「健康」に向けて人々がどのような暮らしをし、考えているのかを個人やグループで考え深めていく。また人々が健康でかつ望む暮らしをすることを支える多職種連携・協働について考える。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	地域について考えよう	夏休みの課題を使い学びの共有を行う	石島 祐美	
	2	地域・在宅看護論実習Ⅰの実習施設の概要を調べ、情報交換	11月の地域・在宅看護論実習Ⅰに向けての学習となります。		
	3				
	4				
	5				
	6	調べた実習施設の概要を発表			
	7	地域・在宅看護論実習Ⅰに向けて事前オリエンテーションを受け、さらに施設について学ぶ			
	8				
	9				
	10				
	11	地域・在宅看護論実習Ⅰでの学びの振り返りと情報共有			
	12				
	13				
	14				
	15	地域・在宅看護論実習Ⅰでの学びをグループワークを通して発表を行います。			
	16				
	17				
	18				
	19	地域の施設のひとつである「病院」での暮らしを考える			
	20				
	21				
	22	専門職連携教育（IPE）	基礎看護学実習Ⅰで担当した患者の生活を想起し、療養生活について考えます。		
23	（看護師・介護福祉士・社会福祉士）	介護福祉士・社会福祉士の学生との共同学習となります。			
履修条件	暮らしのしくみ・静岡地域学と地域・在宅看護論概論の履修が進んでいること				
評価方法	出席日数 授業態度（演習への参加態度も含む） 課題提出状況 ポートフォリオ				
テキスト	実習要綱 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	成人看護学概論	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子				
授業目的	成人看護の対象を理解し、健康支援をするための基礎を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人看護の対象である成人（大人）について、成長・発達過程からみた成人の特徴を理解する。 2 成人期の健康を支援する理論の活用について知る。 3 成人の健康の動向について統計を読み解く。 4 成人の保健・医療・福祉政策について知り健康支援を考える。 				
授業概要	<p>成人期の対象の理解のために、まずは自分自身や自分の周囲の成人期の人を手掛かりに生活を営む様子を調べ成人期にはどのような身体的・心理精神的、社会的な特徴を知る。成人期の社会生活や暮らしに目を向け、働くこと、家族関係、生活スタイルなどの実状を知る。</p> <p>様々な統計から、成人期の健康問題を知る。そのような成人期の健康を守るための保健・医療・福祉政策を調べ、成人期の対象が地域社会で健康状態を維持しながら生きられることを支援できるように基礎的な知識を学ぶ。</p>				
授業展開	内容	準備等	担当者		
	1 成人と生活 成人期を生きる人とはどのようなひとなのだろうか？		玉木恭子		
	2 成人と生活 対象の理解（対象の理解・対象の生活）	課題あり GW			
	3 生活と健康 成人を取り巻く環境と生活から見た健康				
	4 生活と健康 成人の健康の状況				
	5 生活と健康を守りはぐくむシステム① 保健・医療・福祉に関わる施策をまとめる	GW			
	6 生活と健康を守りはぐくむシステム② 発表	GW			
	7 成人への看護アプローチの基本・健康レベルや状態に応じた看護				
8 終了試験					
履修条件	計画的に予習し臨むこと。 日頃から健康問題や健康支援に関する新聞記事に注目し集めておくこと。				
評価方法	課題レポート・ワーク参加状況、筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向2026/2027 厚生統計協会				
参考書	健康づくり対策に関する新聞記事				
備考					

科目	老年看護学概論		単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義		時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 木下 真理子					
授業目的	少子高齢化が加速しているわが国において、老年看護に求められる期待は大きく、看護実践の対象者の多くを占めている。そこに関わる私たちは、老年期の対象理解は必修である。老年看護の意味を深めながら、住み慣れた地域で暮らす生活の視点を学び実践に繋げていきたい。また、自分自身の老いを体験する前に、未知なる老いの世界を探索し考えることから、未知なる自己の人生をも思考し発展させ深めたい。					
到達目標	1 ライフサイクルの中で老年期をとらえ、老年期にある対象の身体的・心理的・社会的機能の特徴と生活に関連づけて理解する。 2 高齢者が地域で暮らしていくための支援を理解する 3 高齢者の課題を理解し、高齢社会の中で求められている老年看護の目標・役割を理解する。					
技術項目						
授業概要	・自分を取り巻く社会から、いずれ皆さんも往く道としての老年期をより豊かに迎えられるように、自らの周りを改めて見つめ自分のこととして考えてみよう。 ・日頃から政策や社会の時事に関心をもって、現代の高齢社会について見聞し、実践的な看護について考えてみよう。 (高齢者・生活・生命・医療倫理について、新聞・テレビの情報に積極的に目を向けよう。)					
授業展開	内容			準備等		担当者
	1	・超高齢社会の現状の理解 ・高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の理解		・自分が抱いている高齢者観 ・インタビュー対象の決定 (高齢者1名以上)		木下真理子
	2	・高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴と生活への影響に関連付けて考える (インタビューを活用する)		・事例の調べ学習		
	3	・高齢者の特徴・死生観について、実際の関りから学びを深化させる ・対象の発達課題を捉える意味を振り返り、実際の場面を活かして考える		・新聞記事の考察 ・実習で見たこと・聞いたこと		
	4	・社会の変化に伴う法律や支援体制の変遷を知る ・法律や支援体制について、実際の体験と関連付けて考えることで、高齢者が地域で暮らすことについて考える		・高齢者に関する法律や制度の変遷について ・実習で見聞きした高齢者に関する法律や制度に関連すること		
	5	・老年看護を実践するにあたり必要な理論・概念について理解する ・理論・概念を実際の体験と関連付けて考える		・老年看護で必要な理論・概念について ・実習で見聞きしたことと、理論・概念を関連させて考える		
	6	・権利擁護を理解するために必要な用語について理解できる ・権利擁護の必要性を学ぶ ・専門職連携教育（IPE）の必要性を学び、看護の専門性と役割について考える		・権利擁護に関連する用語について ・高齢者の支援に関わる職種と、その役割について ※看護の専門性		
	7	・高齢者を取り巻く多職種の理解・役割 ・老年看護の役割について		・老年看護に携わる職種についての学習		
8	終了試験					
履修条件	老年期という自分が体験していない未知の世界の学びです。講義内容を意識して、各自で事前学習して授業に臨むことを希望します。また、体調管理して意欲的に参加してください。					
評価方法	①筆記試験（60点） ②課題の提出状況 ③GWの評価（資料の作成・発表） ④授業への参加状況					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 国民衛生の動向		医学書院 (財)厚生統計協会			
参考書						
備考	理論・概念 サクセスフルエイジング、コンフォート理論、ストレングスモデル、エンパワメント理論 制度 介護保険制度、高齢者医療確保法、生活保護					

看護学科

講義要綱

科目	精神看護学概論	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 森 康太 (10) 公認心理士 酒井田 愛香 (20)				
授業目的	精神看護学の基盤となる「こころ」を多角的な視点から理解する。				
到達目標	1 現代社会におけるこころの健康の現状を知り、精神看護の必要性を学ぶ。 2 こころの健康について学び、看護師の役割を理解する。 3 精神保健について理解し、精神保健活動について学ぶ。 4 こころを病む人を取り巻く社会の現状と歴史を知り、必要な支援について考える。				
技術項目	71精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	精神科看護学では、心のはたらきについてどのような研究がなされてきたかを学び、実践に生かせるような知識を習得することを目的とする。また、自分の心の動きについても注目し、演習でセルフケアの方法を学ぶ。患者とその家族とのスムーズでサポートティブなコミュニケーションを学び、対人スキルと心のケアについての理解を深める。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	開講オリエンテーション こころとは何か、こころの健康とは何か考えてみよう	グループワーク		森 康太
	2	ケアの人間関係 自分について知ること、相手を知ろうとすること	ペアワーク		森 康太
	3	心の仕組みとパーソナリティ			酒井田 愛香
	4	自己理解のための心理検査1 (質問紙法)	演習		酒井田 愛香
	5	ストレスのメカニズムとストレスマネジメント リラクゼーション法：呼吸法	演習		酒井田 愛香
	6	精神疾患と社会復帰支援 1	演習 グループワーク		酒井田 愛香
	7	精神疾患と社会復帰支援 2	演習 グループワーク		酒井田 愛香
	8	コミュニケーションとアンガーマネジメント リラクゼーション法：マインドフルネス・筋弛緩訓練・自律訓練法	演習		酒井田 愛香
	9	様々な精神療法と実際 認知行動療法	演習		酒井田 愛香
	10	心の仕組みと発達 自己理解のための心理検査2 (投影法)：バウムテスト	演習		酒井田 愛香
	11	カウンセリングのエッセンス 1 自己理解のための心理検査3 (投影法)：雨の中の私	演習		酒井田 愛香
	12	カウンセリングのエッセンス	演習 グループワーク		酒井田 愛香
	13	生活の場と精神保健、静岡市の精神保健の現状	グループで調べ学習		森 康太
	14	静岡市の精神保健：学習成果発表	各グループ発表		森 康太
15	終了試験			森 康太	
履修条件	主体的なコミュニケーションや学びを大切にする。したがって、積極的で対話的な参加態度を希望する。				
評価方法	講義の出席状況・レポート・筆記試験を総合的に評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の基礎」精神看護学 [1] 医学書院 (酒井田・森) ※補助教材や関連資料も使用するが、各講義において配布する (酒井田)				
参考書					
備考	自己理解や臨床に生かせる知識習得のため、講義中いくつかの心理検査を実施予定。				